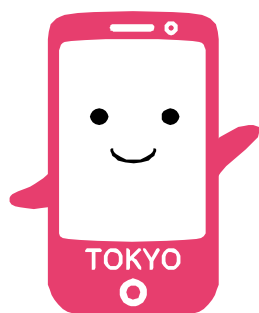


生成AIリテラシー教材

教員用

指導サポートシート

目次



- P.1 本教材の概要
- P.2 本教材の使い方
- P.3 学習目的と指導におけるポイント
 - スタンダード版 基本編
- P.4 スタンダード版 注意編
- P.5 スタンダード版 活用編
- P.6 学習目的と指導におけるポイント
 - アドバンスト版 基本編
- P.7 アドバンスト版 注意編
- P.8 アドバンスト版 活用編
- P.9 指導展開例 基本編
- P.10 指導展開例 注意編
- P.11 指導展開例 活用編

本教材の概要

本教材の目的

AI時代を生きる児童・生徒が、生成AIについて正しく理解することで、生成AIをはじめとするテクノロジーを安全かつ、効果的に使いこなし、それぞれの能力を伸ばしていくための入り口とすることを目指します。

本教材の特徴

1. 充実した動画教材

充実した動画と、学習シートと、生成AIの動きを疑似的に体験できるトライアルツールにより、児童・生徒が自分自身で学習を進めていくことができます。

2. 具体例が豊富

具体的な活用場面を多く取り入れて、いつどのように使えるかを分かりやすく紹介しているので、生成AIを使うイメージをもてない人や、どのようなプロンプトを入力したらよいか分からない人も安心して取り組みます。

3. 短い時間でも実施可能

児童・生徒向けの動画は1本当たり約5分間です。まとまった時間が取れない場合でも、短い時間を使って実施することが可能です。

教員用動画の内容

生成AIについて教員向けに解説をした約30分間の動画です。

本動画は、教員の皆様が生成AIについて基本知識をもち、今後に生かしていただくとともに、児童・生徒に指導を行う際の参考となるよう、使用時の留意点などに配慮して制作しています。

校務や学習活動に生成AIを活用しやすいように、具体例も紹介していますので、御参照ください。



◆校務で活用する例

- ・各種お便りや通知文のたたき台の作成
- ・保護者会、面談等の日程調整

◆学習活動で活用する例

- ・生徒自身の考えに別視点の意見を追加する
- ・生成AIの出力内容を考察する

<関連資料・サイト>

- ・東京都教育庁の情報教育ポータルサイト「とうきょうの情報教育」(<https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/>)
- ・文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン (Ver.2.0)」(令和6年12月26日) (https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf)

本教材の使い方

本教材は、様々な使い方が可能です。指導時間、または児童・生徒の状況に応じて、適宜アレンジしてお使いいただけます。

【各種教材について】 本教材は基本編、注意編、活用編の3編で構成しており、それぞれに動画、学習シート、トライアルツールがあります。教材は全てスタンダード版（主に小学生向け）、アドバンスト版（主に中高生向け）を御用意しています。主な学習内容は共通のため、動画はアドバンスト版を使用し、学習シートはスタンダード版を使用することなども可能です。特別支援学校などでの使用にあたっては、児童・生徒の状況に応じて、読み上げ機能などの支援ツールを活用しながら御利用ください。 ※他に動画「導入編」の用意もございます。必要に応じて事前に御視聴ください。

基本編	動画 ①生成A Iって何？（約3分） ②生成A Iができること（約3分）	学習シート • 生成A Iとは何か、生成A Iの仕組み • 文章生成など生成A Iができること	トライアルツール スタンダード版：手紙の文章生成、ポスターの画像生成 アドバンスト版：キャッチコピーの文章生成、しよりの画像生成 <small>※トライアルツールは、生成A Iを使ったことがない人や使える環境でない人に向けた疑似体験ツールです。学校で生成A Iを日常的に使っている場合、基本編のトライアルツールは省略可能です。</small>
	動画 ①生成A Iも間違える？（約3分） ②差別をする生成A I!?（約3分） ③著作権に注意！（約3分）	学習シート ハルシネーションやバイアスの可能性、著作権への配慮、個人情報への配慮	トライアルツール ハルシネーション、バイアス、著作権への配慮、個人情報への配慮
	動画 生成A Iを使いこなそう！（約7分）	学習シート • 生成A Iの活用ルール • プロンプトを作るポイント	トライアルツール プロンプトを作るポイント 「目的」「対象」「出力形式」の確認

【使い方例 1】 各編を1コマずつ、授業等3コマで実施

基本編 1コマ → 注意編 1コマ → 活用編 1コマ

- 各編1コマ設定とした展開例は、指導サポートシートのP.9～P.11に提示しています。学習のねらいをはじめ、声掛けのポイント、学習シートやトライアルツールに取り組むタイミング、児童・生徒同士の話し合いなど、時間配分が記載されており、指導がスムーズかつ効果的に進められます。

【使い方例 2】 各編を組み合わせ、授業等1コマで実施

- **各編ポイント1コマ** → 動画6本は各自授業等の後に視聴
• 授業等で各編のポイントを解説した後、自宅で動画6本を視聴するよう案内する。
- **動画視聴と説明1コマ** → 学習シート・トライアルツールは家庭学習で実施
• 授業等では動画6本の視聴と簡単な説明を行う。学習シートとトライアルツールは家庭学習用として案内する。
- **基本編1コマ** → 注意編・活用編は家庭学習で実施
• 授業等では基本編のみを実施し、注意編と活用編は家庭学習用として案内する。

【使い方例 3】 短い時間で複数回に分けて取り組む

- 動画は基本編2本、注意編3本、活用編1本の計6本に分かれているため、一つのテーマの動画と学習シートを組み合わせながら、状況に応じて複数回に分けての取組も可能です。

動画
見て学ぶ



各編の学習目的

学習シート

書いて
確認する



トライアル
ツール

体験する



本教材では3つの角度から生成AIの仕組みや活用法について学ぶことができます。

- 「動画」を見て学ぶ
- 「学習シート」に書いて確認する
- 学んだ内容を「トライアルツール」で体験する

単体の教材はもちろん、各教材を組み合わせ御活用いただくことで、各編の学習目的に到達できるように構成しています。動画、学習シート、トライアルツールに取り組む順番は、児童・生徒の知識量や指導時間によって御調整ください。

※一例は、P.9～P.11の指導展開例に記載しています。
※トライアルツールは、生成AIの動きをイメージしたコンテンツであり、実際の生成AIではありません。

基本編

基本編の学習目的

- 生成AIの仕組みや使いやすさを知り、興味をもつきっかけとする
- 生成AIの文章生成や画像生成の具体例を知り、活用意欲につなげる

各教材の目的と指導のポイント

動画

見て学ぶ



教材の目的

動画を視聴することで、右の要点を理解する



動画①の要点

- 生成AIはたくさんの情報を学び新しいものを作り出すAI
- 生成AIは、話し言葉で簡単に使うことができる

指導のポイント

- 生成AIの仕組みはとても複雑なため「簡単にいうと、コンピュータの賢い頭脳を使って新しいものを作り出す技術」など、あくまでも簡略化した説明とする。
- 児童・生徒の日常と結び付け、生成AIの活用に対して興味をもたせる。



動画②の要点

- 生成AIは文章を作るだけでなく、要約や翻訳もできる
- 画像や映像、音楽を作ることができる生成AIもある

学習シート

書いて
確認する



教材の目的

動画で学んだ、生成AIの仕組みや機能を整理し、理解する

指導のポイント

- 動画の要点をシートに記入することで、生成AIの基本的な仕組みと機能を確認するよう促す。

トライアル
ツール

体験する



教材の目的

動画の内容を踏まえ、生成AIの基本操作を体験する

指導のポイント

- 動画の内容を踏まえ、生成の流れ(プロンプト入力から回答出力まで)を体験することで使用方法への理解を深めるよう促す。
- 入力内容によって回答が異なる体験をする機会を作る。

注意編

注意編の学習目的

- 生成A Iを使用する際に注意すべきこと(ハルシネーション、バイアス、著作権や個人情報の扱い)について知る
- 生成A Iを利用する際には「自分で確認し、判断すること」が大切であると学ぶ

各教材の目的と指導のポイント

動画
見て学ぶ



教材の目的

動画を視聴することで、以下の要点を理解する



動画①の要点

- 生成A Iは間違った情報を出すことがあり、これをハルシネーションという
- 生成A Iの回答については、自分で複数の情報源を確認する必要がある



動画②の要点

- 生成A Iは、バイアス(偏った考え)を含んだ回答を生成してしまうことがある
- 生成A Iの回答はそのまま使うことはせずに、自分で判断する必要がある



動画③の要点

- 生成A Iの生成物については、誰かが作ったものに似ていないかなど、著作権に問題がないかを確認する必要がある
- 悪用されることを避けるため、個人情報は入れないようにする

指導のポイント

- 生成A Iをむやみに怖がったり回答を鵜呑みにしたりせず、最後は「自分で判断する」ことを意識して利用する姿勢を促す。
- 児童・生徒に差別や偏見の知識がない場合は、補足説明を加える。
- 意図せず加害者や被害者にならないためにも、著作権侵害や個人情報漏洩には十分に注意するよう伝える。

学習シート
書いて確認する



教材の目的

動画で学んだ、生成A Iを利活用する際の注意点を整理し、理解する

指導のポイント

- 動画内容を振り返り、注意点を記入し、それぞれの内容を確認するよう促す。

トライアルツール
体験する



教材の目的

動画の内容を踏まえ、生成A Iのハルシネーションなどの注意点到気づく体験をする

指導のポイント

- 動画内容を踏まえ、生成A Iは、注意点を確認しながら利用することが重要であることを伝える。
- 生成A Iのハルシネーションなどがどのような現象なのかを体験することで、ハルシネーションなどに対する理解を深めるよう促す。

活用編

【活用編の学習目的】

- 生成A I 活用のルールを学び、適切に使う方法を身に付ける

【各教材の目的と指導のポイント】

動画
見て学ぶ



教材の目的

動画を視聴することで、以下の要点を理解する



動画の要点

- 生成A I を活用する場面と、活用する際に守るべき3つのルール
- 生成A I を上手に使うためのプロンプトを作るポイント

指導のポイント

- 生成A I を利用する際は、まず自分で考えることが大切であると伝える。生成A I の回答は自分で確認し、補助的なツールとして使う姿勢を促す。
- プロンプトを作るポイントは様々あるが、まずは人とのコミュニケーションと同じように、指示を具体的に伝えることが大切であると指導する。求める回答と異なる場合は、プロンプトを改善することで、求めるイメージに近づけることができることを伝える。
- 生成A I の利用について、学校で決まりがある場合には、併せて伝える。

学習シート

書いて確認する



教材の目的

動画で学んだ、
生成A I を使うときのルールや、
プロンプトを作るポイントを整理し、理解する

指導のポイント

- 動画の要点を記入することで、生成A I を活用する際の3つのルールと、プロンプトを作る際のポイントを認識するよう促す。

トライアルツール

体験する



教材の目的

動画の内容を踏まえ、求めているものに
近い回答を得るためのプロンプトの選択を
体験する

指導のポイント

- 希望の内容に近い回答を得るためのプロンプトの選択を体験し、プロンプトを作るために必要な要素を確認するとともに、実際に利用するイメージをもつように促す。
- 「目的」「対象」「出力形式」のそれぞれが欠けている場合の回答例を確認することで、希望の回答との差異を実感する機会を作る。

動画
見て学ぶ



各編の学習目的

学習シート

書いて
確認する



トライアル
ツール

体験する



本教材では3つの角度から生成AIの仕組みや活用法について学ぶことができます。

- 「動画」を見て学ぶ
- 「学習シート」に書いて確認する
- 学んだ内容を「トライアルツール」で体験する

単体の教材はもちろん、各教材を組み合わせ御活用いただくことで、各編の学習目的に到達できるように構成しています。動画、学習シート、トライアルツールに取り組む順番は、児童・生徒の知識量や指導時間によって御調整ください。

※一例は、P.9～P.11の指導展開例に記載しています。
※トライアルツールは、生成AIの動きをイメージしたコンテンツであり、実際の生成AIではありません。

基本編

基本編の学習目的

- 生成AIの仕組みや使いやすさを知り、興味をもって利用するきっかけとする
- 実生活の中で生成AIを活用することで便利になる具体的な場面を想像するよう促す

各教材の目的と指導のポイント

動画

見て学ぶ



教材の目的

動画を視聴することで、右の要点を理解する



動画①の要点

- 生成AIは多くの情報を学び、新しいものを作り出すAI
- 生成AIは、話し言葉で簡単に使うことができる

指導のポイント

- 現在の生成AIの仕組みや使いやすさに加え、生成AIが情報を学習し日々進化していることも伝える。
- 日常の中での活用場面を想像し、様々な場面での利用につなげるよう促す。



動画②の要点

- 生成AIは文章を作るだけでなく、要約や翻訳もできる
- 画像や映像、音楽やプログラミングコードを作ることができる生成AIもある

学習シート

書いて
確認する



教材の目的

動画で学んだ、生成AIの仕組みや機能を整理し、理解する

指導のポイント

- 動画の要点を整理し、生成AIの基本的な仕組みと機能を確認するよう促す。また、生成AIのサービスによっては年齢制限など、利用の制限があることも伝える。
- 自由記述欄では、生成AIの広がりによる身の回りの生活の変化について動画の要点を踏まえた考察を促し、注意編・活用編への関心を広げる導入とする。

トライアル
ツール

体験する



教材の目的

動画の内容を踏まえ、生成AIの基本操作を体験する

指導のポイント

- 動画の内容を踏まえ、生成の流れ(プロンプト入力から回答出力まで)を体験することで使用方法を具体的に理解できるよう指導する。
- 具体的なイメージの提示や情報の追加により、回答に差が出ることを体感し、プロンプトの重要性を認識するよう促す。

※日常的に学校で生成AIを活用している場合、基本編のトライアルツールは省略可能です。

注意編

注意編の学習目的

- 生成AIを使用する際に注意すべきこと(ハルシネーション、バイアス、著作権や個人情報の扱い)についての知識を得る
- 生成AIを利用する際には「自分で確認し、判断すること」が大切であると学び、実際の利用場面での対応力を養う

各教材の目的と指導のポイント

動画
見て学ぶ

教材の目的

動画を視聴することで、以下の要点を理解する



動画①の要点

- 生成AIは間違った情報を出すことがあり、これをハルシネーションという
- 生成AIの回答については、自分で複数の情報源を確認する必要がある



動画②の要点

- 学習した情報の偏りにより、生成AIの回答に不公平で偏った考えが含まれることがあり、このような情報の偏りをバイアスという
- 生成AIの回答をそのまま信じずに、自分で判断することが必要である



動画③の要点

- 生成AIの生成物については、既存の著作物に似ていないかを確認するなど、著作権への配慮が必要である
- 悪用されることを避けるため、個人情報は入れないようにする

指導のポイント

- 生成AIの回答にはハルシネーションやバイアスなどが含まれる可能性があることを伝え、「自分で確認し、判断する」までを一連の流れと捉えた利用を促す。
- 不正につながるような生成AIの使用やトラブルを防ぐためにも、著作権侵害や個人情報漏洩に対する意識を高くもつよう指導する。

学習シート

書いて確認する



教材の目的

動画で学んだ、生成AIを利活用する際の注意点を整理し、理解する

指導のポイント

- 動画の内容を整理し、利用時の注意点についての理解を深め、どのようなことに気を付けるのかを具体的にイメージするよう指導する。
- 自由記述欄では、注意編動画で扱った生成AIの特性(ハルシネーションやバイアスなど)を踏まえ、学習場面での安全な活用方法について考察を促す。

トライアルツール

体験する



教材の目的

動画の内容を踏まえ、生成AIのハルシネーションなどに気付く体験をする

指導のポイント

- 生成AIのハルシネーションなどがどのような現象なのかを体験し、ハルシネーションなどに対する理解を促す。
- 生成AIの回答は「自分で確認、判断する」ことが重要であることを伝える。

活用編

活用編の学習目的

- 生成A Iの活用ルールを学び、適切に使う方法を身に付け、効果的な活用を促す

各教材の目的と指導のポイント

動画
見て学ぶ



教材の目的

動画を視聴することで、以下の要点を理解する



動画の要点

- 生成A Iを活用する場面と、活用する際に守るべき3つのルール
- 生成A Iを上手に使うためのプロンプトを作るポイント

指導のポイント

- 生成A Iはより良い提案を得るための補助的なツールとして使うことで、効果的に活用できると伝える。
- プロンプトを作るポイントは様々あるが、まずは人とのコミュニケーションと同じように、指示を具体的に伝えることが大切であると指導する。求める回答と異なる場合は、プロンプトを改善することで、求めるイメージに近づけることができることを伝える。
- 生成A Iの利用について、学校で決まりがある場合には、併せて伝える。

学習シート

書いて確認する



教材の目的

動画で学んだ、生成A Iを使うときのルールや、プロンプトを作るポイントを整理し、理解する

指導のポイント

- 動画の要点を記入し、生成A Iを活用する際の3つのルールと、プロンプトを作るポイントを理解することで具体的な活用場面のイメージにつなげる。
- 自由記述欄では、3つのポイントを活用してプロンプトを作る実践を通し、学んだ内容の理解を深める。

トライアルツール

体験する



教材の目的

動画の内容を踏まえ、求めているものに近い回答を得るためのプロンプトの選択を体験する

指導のポイント

- プロンプトの違いによってイメージしたものに近い回答を得られることを実感させ、利用時の参考とするよう指導する。
- 生成A Iにアイデアや改善点を出してほしいときは、まず自分で考え、プロンプトを作るポイントを意識しながら具体的に伝える大切さを補足する。

指導展開例 基本編

ねらい 生成A Iの仕組みや機能について知り、トライアルツールを使用して生成A Iの基本操作を体験する。

展開例 基本編を1コマ(45分想定)で実施する際の展開例となります。
記載した時間については、指導時間に応じて適宜変更してください。

時間	活動内容	指導の流れとポイント
1分	▶ 本時のねらいと流れの確認	<p>【ねらい】生成A Iの仕組みや機能について知り、トライアルツールを使用して生成A Iの基本操作を体験する</p> <p>【本時の流れ】動画①・学習シート⇒動画②・学習シート⇒トライアルツール体験⇒振り返り</p>
5分	▶ 動画視聴 基本編①「生成A Iって何?」 ▶ 学習シートに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> • 基本編①動画を視聴する • 動画を視聴しながら学習シートに要点を穴埋めする⇒全体で解答を確認する
7分	▶ 動画視聴 基本編②「生成A Iができること」 ▶ 学習シートに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> • 基本編②動画を視聴する • 動画を視聴しながら学習シートに要点を穴埋めする⇒全体で解答を確認する <p>POINT! ○文章・画像などの生成の例を示すことで、活用内容の広がりを実感させ、可能性に期待をもつよう導く。</p>
13分	▶ 学習シート 自由記述欄の記入⇒全体で共有 アドバンス版:自由記述欄のテーマを基に対話の時間とする	<ul style="list-style-type: none"> • 学習シートP.2の自由記述欄に取り組む <p>スタンダード版</p> <ul style="list-style-type: none"> • 動画を視聴して学んだことや思ったことを記入する • 記入内容を他の人と共有する <p>アドバンス版</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生成A Iの広がりによる身の回りの生活の変化を、学んだことや調べたことを基に記入する • 記入内容を踏まえ、ペアやグループでの対話の時間とし、最後はクラス全体で共有する <p>回答例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生成A Iの文章の翻訳で、英語をスムーズに読むことができるようになる • 文章生成で、苦手な教科の勉強方法を教えてもらい、取り組みやすくなる • 生成A Iの意見を求めることが多くなり、自分で考える機会が減るかもしれない <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本編動画の要点を踏まえ、生成A Iの「どのような機能や特徴」が「どう生活を変えるのか」という視点で話し合えるとよい。 ○正解のないテーマのため、意見を共有した後は、多様な考えを認めながら、「他にはこんな可能性もある」など補足をして終わるとよい。
15分	▶ トライアルツール体験 トライアルツール基本編を体験する	<ul style="list-style-type: none"> • トライアルツール基本編の概要を確認する <p>トライアルツールの①は文章生成体験、②は画像生成体験(2つ続けて実施) スタート画面から各自指示に従って進める 選択肢に正解・不正解はないため、どちらを選んでもよい(やり直しも可)</p> <p>【トライアルツール基本編内容】生成体験</p> <p>スタンダード版:①手紙の文章生成 ②運動会ポスターの画像生成 アドバンス版:①クラスのキャッチコピー生成 ②修学旅行のしおりの画像生成</p> <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トライアルツールを通じて、実際の生成A Iの活用の前に、プロンプト入力から回答出力までを疑似体験する機会を設ける。 ○ツールを進められない児童・生徒がいる場合は、個々に対応する。
4分	▶ 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> • 学習シートを活用し、本時の学びを振り返る <p>【発話例】生成A Iの仕組みや機能を学び、文章や画像の生成を体験しました。生成A Iの特徴を生かし、どんな場面で便利に活用できるのかを考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次回の内容を伝える

指導展開例 注意編

ねらい 生成AIを使用する際に注意すべきことを、動画やトライアルツールを通して学ぶ。

展開例

注意編を1コマ(45分想定)で実施する際の展開例となります。
記載した時間については、指導時間に応じて適宜変更してください。

時間	活動内容	指導の流れとポイント
1分	<ul style="list-style-type: none"> ▶基本編の振り返り ▶本時のねらいと流れの確認 	<ul style="list-style-type: none"> •(状況に応じて)基本編で学んだ内容を振り返る 【ねらい】生成AIを使用する際に注意すべきことを、動画やトライアルツールを通して学ぶ 【本時の流れ】動画①・学習シート⇒動画②・学習シート⇒動画③・学習シート⇒トライアルツール体験⇒振り返り
5分	<ul style="list-style-type: none"> ▶動画視聴 注意編①「生成AIも間違える？」 ▶学習シートに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> •注意編①動画を視聴する •動画を視聴しながら学習シートに要点を穴埋めする⇒全体で解答を確認する
4分	<ul style="list-style-type: none"> ▶動画視聴 注意編②「差別をする生成AI!？」 ▶学習シートに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> •注意編②動画を視聴する •動画を視聴しながら学習シートに要点を穴埋めする⇒全体で解答を確認する
6分	<ul style="list-style-type: none"> ▶動画視聴 注意編③「著作権に注意！」 ▶学習シートに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> •注意編③動画を視聴する •動画を視聴しながら学習シートに要点を穴埋めする⇒全体で解答を確認する
15分	<ul style="list-style-type: none"> ▶学習シート 自由記述欄の記入⇒全体で共有 アドバンスト版:自由記述欄のテーマを基に対話の時間とする 	<ul style="list-style-type: none"> •学習シートP.2の自由記述欄に取り組む <p>スタンダード版</p> <ul style="list-style-type: none"> •動画を視聴して学んだことや思ったことを記入する •記入内容を他の人と共有する <p>アドバンスト版</p> <ul style="list-style-type: none"> •生成AIのハルシネーションやバイアスといった特性を踏まえ、勉強の場面に焦点を当てて、生成AIを安全に活用する方法について、学んだことを基に考察する •記入内容を踏まえ、ペアやグループでの対話の時間とし、最後はクラス全体で共有する <p>回答例:</p> <ul style="list-style-type: none"> •生成AIの回答をそのまま信じるのではなく、自分でも教科書などで調べる •生成AIが出した情報が偏った考えになっていないかを意識して、他の資料や他の人の意見と比べたり、反対の意見や別の視点を調べてみたりする <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○注意編動画の要点を踏まえ、児童・生徒の意見から、生成AIの特性(ハルシネーションやバイアス)と、安全に活用する方法の両方を整理する。 ○「危険だから使わない」ではなく、「どうすれば安全に活用できるか」という前向きな工夫につなげる。
12分	<ul style="list-style-type: none"> ▶トライアルツール体験 トライアルツール注意編を体験する 	<ul style="list-style-type: none"> •トライアルツール注意編の概要を確認する クイズ形式で動画の復習を行う ①ハルシネーション ②バイアス ③著作権への配慮 ④個人情報への配慮 スタート画面から各自指示に従って進める(各選択肢に解説あり) <p>【トライアルツール注意編内容】クイズ形式</p> <p>スタンダード版:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①歴史に関する記述のハルシネーションに気付く ②職業の情報に含まれるバイアスに気付く ③著作権に気を付けて、販売するグッズのアイデアへのプロンプトを選ぶ ④個人情報に問題のない自己紹介カード作成時のプロンプトを選ぶ <p>アドバンスト版:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本の文化に関する記述のハルシネーションに気付く ②職業の情報に含まれるバイアスに気付く ③著作権に留意しているイラストのアイデアへのプロンプトを選ぶ ④個人情報に問題のない部活動の紹介文章のプロンプトを選ぶ <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クイズ形式で復習することで、楽しみながら学習するよう促す。 【👁️】 ○ツールを進められない児童・生徒がいる場合は、個々に対応する。
2分	<ul style="list-style-type: none"> ▶振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> •学習シートを活用し、本時の学びを振り返る 【発話例】生成AIがいつも正しい答えを出すとは限らないことや、使うときの注意点を学習しました。生成AIを安心、安全に役立てるためには、自分自身で確認し判断することが大事であることを覚えておきましょう。 •次回の内容を伝える

指導展開例 活用編

ねらい 生成AIを活用する際のルールを学ぶ。また、プロンプトを作るポイントを知る。

展開例

活用編を1コマ（45分想定）で実施する際の展開例となります。
記載した時間については、指導時間に応じて適宜変更してください。

時間	活動内容	指導の流れとポイント
1分	<ul style="list-style-type: none"> ▶基本編・注意編の振り返り ▶本時のねらいと流れの確認 	<ul style="list-style-type: none"> •(状況に応じて)基本編・注意編で学んだ内容を振り返る 【ねらい】生成AIを活用する際のルールを学ぶ。また、生成AIへの指示であるプロンプトを作るポイントを知る 【本時の流れ】動画・学習シート⇒トライアルツール体験⇒振り返り
5分	<ul style="list-style-type: none"> ▶動画視聴 活用編「生成AIを使いこなそう！」 ▶学習シートに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> •活用編動画を視聴する •動画を視聴しながら学習シートに要点を穴埋めする⇒全体で解答を確認する
15分	<ul style="list-style-type: none"> ▶学習シート 自由記述欄の記入⇒全体で共有 アドバンスト版:自由記述欄のテーマを基に対話の時間とする 	<ul style="list-style-type: none"> •学習シートP.2の確認コーナーを記入し、プロンプトのポイントを確認する •学習シートP.2の自由記述欄に取り組む <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>スタンダード版</p> <ul style="list-style-type: none"> •今日から生成AIを使ってみる場合、どのようなときに使ってみたいか、イメージできることを記入する •記入内容を他の人と共有する <p>アドバンスト版</p> <ul style="list-style-type: none"> •生成AIを活用したい場面をイメージし、プロンプトを作る3つのポイントを意識しながら、プロンプトを実際に書いてみる •記入内容を踏まえ、ペアやグループで共有の時間とし、分かりやすく具体的なプロンプトかどうかを確認し合いながら、プロンプトを改善する </div> <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT! 対話をする中で、動画で確認した効果的なプロンプトを作るポイントを再認識するよう促す。</p> </div>
15分	<ul style="list-style-type: none"> ▶トライアルツール体験 トライアルツール活用編を体験する 	<ul style="list-style-type: none"> •トライアルツール活用編の概要を確認する クイズ形式で動画の復習を行う プロンプトを作るポイント ①目的 ②対象 ③出力形式 スタート画面から各自指示に従って進める(各選択肢に解説あり) <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【トライアルツール活用編内容】クイズ形式</p> <p>スタンダード版:①係活動のポスター作成のアイデア出しで、「目的」が入っているプロンプトを選ぶ ②理科の授業の解説で、「対象」が入っているプロンプトを選ぶ ③クラス目標のアイデア出しで、「出力形式」が入っているプロンプトを選ぶ</p> <p>アドバンスト版:①文化祭のパンフレット作成のアイデア出しで、「目的」が入っているプロンプトを選ぶ ②数学の練習問題の作成で、「対象」が入っているプロンプトを選ぶ ③クラス目標のアイデア出しで、「出力形式」が入っているプロンプトを選ぶ</p> </div> <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT! プロンプトの内容によって生成AIが作るものに差異が出ることを体験させ、イメージに近い結果を得るために必要な要素を正しく認識するよう導く。 ○ツールを進められない児童・生徒がいる場合は、個々に対応する。</p> </div>
9分	<ul style="list-style-type: none"> ▶振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> •学習シートを活用し、本時の学びを振り返る 【発話例】生成AIを活用するときのルールと、プロンプトという生成AIへの指示のポイントを学びました。しっかりしたプロンプトを準備することで、生成AIを使う目的もはっきりします。生成AIは、ルールを守りながら適切に使ひこなし、皆さんの学びを深めたり広げたりするために活用していきましょう。 •動画で紹介したルールやプロンプトを作るポイントを振り返り、生成AIを安全かつ効果的に使う意識を確認し、終える <div style="background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>POINT! 具体的な活用場面を想像させることで、利活用への意欲を高める。</p> </div>

生成AIリテラシー教材 教員用 指導サポートシート



初版

発行日 2025年12月

- 監修 東京大学 大学院工学系研究科 准教授 吉田壘
- 制作 東京都教育庁総務部デジタル推進課
所在地：東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
- 協力 葛飾区立二上小学校
東久留米市立本村小学校
中央区立日本橋中学校
北区立王子桜中学校
東京都立向丘高等学校
東京都立光明学園
東京都立永福学園
東京都立小平南高等学校
- 教材制作 株式会社小学館集英社プロダクション
動画制作協力 株式会社小学館ミュージック&デジタル エンタテインメント
AA MOVIE 株式会社
学習シート・指導サポートシートデザイン制作 株式会社カラビナ
トライアルツール制作 株式会社小学館ミュージック&デジタル エンタテインメント
- イラスト・写真 illustAC・Adobe Stock

- 本教材は、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)」(https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf)(文部科学省:令和6年12月26日)、「都立学校生成AI利活用ガイドライン(Ver.1.0)」(<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/2025-05-07-161048-501>)(東京都教育庁:令和7年5月9日)に基づいて作成しています。
- 本教材の著作権は、東京都教育庁が所有しています。
- 本教材は、児童・生徒・教員・保護者への啓発・教育を目的として、無償で提供する場合に限り、自由に利用することができます。これ以外での二次利用はおやめください。